

## 2026年(令和8年)5月オホーツク管内倒産集計

令和8年6月2日

**株式会社 東亜リサーチ**

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

### 2か月連続の発生ゼロ

#### 中東情勢長期化で厳しい状況続く

■前月比	件数	同数(令和8年4月)	0件)
	負債総額	同額(	0円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	1件減少(令和7年5月)	1件)
	負債総額	11,300万円減少(	11,300万円)

#### 2026年(令和8年)5月の発生状況

2026年5月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は前月に続き2か月連続で発生がなかった。今年3月には破綻が一気に表面化して計5件の倒産発生が見られたものの、その後は大きな動きもなく小康状態が続く。

過去5か年における5月の倒産発生は21年1件、22年0件、23年2件、24年1件、25年1件で平均発生件数は1.0件。同負債総額は9,413万円。

### 過去5年間と今年1～5月の発生推移

過去5年間の1～5月の発生推移は【右・表】の通りで、平均発生件数は5.4件。同負債総額は5億8,775万円となっている。

今年は3月に5件の破綻が相次いで発生したがその他の月は発生がなく、件数・負債額ともに過去5か年の平均を下回る。

過去5年間と今年1～5月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2021年	7件	5億9,700万円
2022年	0件	0円
2023年	6件	3億8,175万円
2024年	7件	9億3,414万円
2025年	7件	10億2,589万円
2026年	5件	4億1,603万円

### 今後の見通しと問題点

2026年は新政権発足により物価の安定や所得向上をはじめとする様々な政策実現への期待が高まっていたが、中東情勢の緊迫化で原油価格高騰や建設資材不足などが顕著となり、再び物価上昇の流れが加速するなど頭の痛い状況が続く。とりわけ”ナフサショック”は建設現場をはじめ各方面に多大なる影響を及ぼしており、早期の収束が待たれる。また、中小事業者にとっては長期金利上昇による資金繰りへの影響も大きな懸念材料だ。

オホーツク管内は3月に企業破綻が相次ぐなど懸念していた事態が一気に表面化した。4～5月は2か月連続で倒産発生が見られなかったものの、中東情勢の悪化・長期化で中小事業者における収益圧迫の要因が加速度的に増し、今なお続く人手不足の問題なども経営逼迫に追い打ちをかける。新型コロナ終焉から数年が経過し、事業の健全化を図るべく鋭意取り組みを進める事業者も多いが、まだまだ予断を許さない状況が続く見通しだ。

